

## 環境福祉経済委員会 視察報告書

1 視察日 平成27年5月26日(火)

2. 視察先

- ①瀬戸風線(新道路と接続予定地)
- ②虹ヶ浜海岸、室積松原海岸
- ③里の厨



3. 視察計画

予算審議などで審議された市内事業を視察し、現況や進捗状況を把握するとともに、新たな課題が発生していないか調査する。

月 日	視察場所	視察事項	視察予定時間
5月26日 (火)	虹ヶ丘5~7丁目(瀬戸風線の新区間)および国道188号線(瀬戸風線の接続予定地)	瀬戸風線の現地確認について	13時~ 13時30分
	虹ヶ浜海岸	海岸清掃用ビーチクリーナーの運用状況	13時30分 ~14時
	戸仲漁港周辺 室積松原海岸 (プール周辺)	戸仲漁港・室積松原海岸の整備事業について	14時~15時
	農業振興拠点施設「里の厨」	光市特産品開発促進事業について	15時~16時

#### 4. 視察報告

##### 1 瀬戸風線の現地確認について

###### ■大樂 俊明

光柳井線道路改良事業概要について、平成27年度供用開始されたⅠ期区間480m及びⅡ期区間810mに向けての現地を視察した。

Ⅰ期区間480mの完成で、交通アクセスの向上が見受けられるが、更なるⅡ期区間810mの早期完成が望まれる。地域発展のためにも急がれる所以である。

###### ■萬谷 竹彦

Ⅰ期区間の工事を終えた道路、これからⅡ期区間として工事に入る予定の現地、国道188号線と接続する箇所等を視察しました。Ⅰ期区間の工事は、土地区画整理事業も同時に行われており、見通しの良い大変きれいな道路になっています。Ⅱ期工事に関しても、国道を拡幅するため、埋め立てを行う予定との説明を受けました。つながってこそ瀬戸風線。早期着工、早期完成のために、活動を続けようと感じました。

###### ■磯部 登志恵

長年の懸案事項である瀬戸風線開通に向け、今年2月に開通したⅠ期区間の現状と今後Ⅱ期区間の開通について現地確認を行った。市民から声があがっていたⅠ期区間の危険箇所や、図面ではなく現地確認しながら今後の計画を聞くことができ、非常に参考になった。31年度新光総合病院開院に向け、同時進行での開通を切に願う。

###### ■加賀美允彦

通称瀬戸風線の第Ⅰ期工事とⅡ期工事予定地を視察したが、日頃通りつけているだけに新味はなかったが、なにせ50年もかかった工事であり、もっと早くから取り掛かっていたら光市も今とは違った町になっていただろうと思った。Ⅱ期工事は、計画変更しつつあるとのことだが、安直に変更して、交通渋滞を引き起こさないようにしていただきたいものだ。

###### ■木村 則夫

H26年度に供用開始された、虹ヶ丘森ヶ峠線と工事予定の瀬戸風の予定地を視察の上、説明を受けた。今後、光総合病院の建て替えと合わせて、工事の早期実現が望まれる。市議会の立場としても、県への働きかけが必要と考える。

### ■土橋 啓義

平成27年度に供用開始された光柳井線道路改良事業の第1期区間を視察し、これから着手する第2期区間(瀬戸風線)の開通予定地の説明を受けた。第2期区間が開通すれば、国道188号の交通渋滞が緩和されるとともに、駅北側へのアクセス向上も期待できる。早期の開通を期待する。

### ■中村 賢道

瀬戸風線整備の進捗状況など現地確認を行った。県道光柳井線の道路改良事業として、虹ヶ丘2丁目～7丁目の市道交差点までの1期区間480mは本年2月末に完了。2期区間810mは、現在、虹ヶ丘7丁目の市道交差点から国道に接続するまで計画ルートの一部見直しを進めていると説明を受けた。県土木との密な連携のもと、早期着工、完成を願う。

### ■畠堀 計之

既にI期区間(480m)の工事は完了し共用を開始しており、虹ヶ丘6・7丁目住民の利便性も向上しているが、旧道路との合流地点の整備や街灯設置などが必要となっている。虹ヶ丘からJR線路を越えて国道に合流するII期区間の着工予定は未定とのことであったが、完成、開通後の人や車の流れを勘案した、国道188号光駅南口と北口付近の開発整備が必要であり、次期総合計画における光市のまちづくりの方向性と整合性を持ったビジョンづくりが必要ではないかと考える。

### ■森戸 芳史

完成まであと一歩ということがわかる。完成後は交通の流れがガラッと変わることがイメージできる。今後も粘り強く県に要望し早期の完成に向け議会全体で取り組んでいきたい。

## 2 海岸清掃用ビーチクリーナーの運用状況

### ■大樂 俊明

新規購入されたバーバー社製ビーチクリーナー(牽引式)及びクボタ製トラクター(バケット装着)の海岸清掃状況を実地見学した。この導入により室積・虹ヶ浜海岸清掃はかなりの効果が期待できる。



■萬谷 竹彦

新しく購入したビーチクリーナーを視察しました。トラクターで牽引するタイプのもので、大きなゴミは牽引するバケット装着のトラクターで、小さなゴミはビーチクリーナーでさらっていくタイプの物でした。実際に掃除をするところを見せてもらいましたが、かなり早く、また、かなりきれいになっていくのが感じられました。2つの海水浴場を持つ光市にとって、大きな財産になると思いました。海水浴シーズンにいかに実力が発揮できるか、注視していきたいと思います。

■磯部 登志恵

新しく購入したビーチクリーナーを現場で実際に運転していただき、その清掃状況や年間の運転状況（虹ヶ浜・室積）なども確認できたので、今後の海水浴シーズンに向けた対応に期待ができる。

また移動中の車中から、松林内の草の状況などの課題も確認でき、今後全体の松林の環境などを含めた整備が必要と考える。現状の清掃状況についての確認と共に、今後の提案としていきたい。

■加賀美允彦

虹ヶ浜海岸でビーチクリーナーの実演をみせてもらって、この機械なら著しい効果が現れるとのことだったが、どうもおもちゃの様な感じがしてならなかった。この広い海岸を、しかも大量の流入物を処理するには、もっと大型で機能的な機械が必要ではないかと思った。しかも、購入費が1,800万円もしたとのことではびっくりした。もう少し情報網を駆使して探したら良い機械があったのではなかろうか。

■木村 則夫

H26年度末に購入されたビーチクリーナーを視察した。以前に比べ、飛躍的に能力が向上したと思われるが、業務委託が1社である事。また、その委託費がこれまでより下がったものの、適切であるかどうか、作業量を精査する必要があると考える。

■土橋 啓義

ビーチクリーナーの運用様子を視察した。砂浜からゴミがきれいに無くなっており、今後の効率的な清掃活動が期待できる。購入した機器については適切な管理を行いながら長寿命化を図ってほしい。

■中村 賢道

新しく購入したビーチクリーナーの操業などを視察。これまでは市民の皆さんが人海戦術により大きなゴミ等を手拾いで回収していたが、今後は機械の導入により、回収困難な小さなゴミや砂に埋もれたゴミまでも効率的に回収できることが確認できた。

#### ■畠堀 計之

今般、購入（1, 792万8千円）した牽引式ビーチクリーナー（バーバー社製）とバケット装着トラクター（クボタ製）の操業状況について見学することができた。年間を通じた稼働予定としては、4名程度のチームで7・8月は月間26日稼働、その他の月は月間10日稼働で、室積海岸と虹ヶ浜海岸の清掃を行う。従前は、人による作業であったことから、格段に作業性が向上しており、光市のセールスポイントでもある両海岸の美化に大いに貢献するものと期待できる。今後は、設備を含めた清掃業務などでの民間活力の活用について研究が必要だと考える。

#### ■森戸 芳史

ビーチクリーナーの稼働は夏場のみ、室積松原海岸と虹ヶ浜海岸の割合は1対3の割合での稼働。受託はワーカーズコープ。既存のクリーナーより細かいごみが取れていた。高額な機械なので丁寧なメンテナンスと取扱いの必要性を痛感。

### 3 戸仲漁港・室積松原海岸の 整備事業について

#### ■大樂 俊明

戸仲漁港の整備について事業の施工状況を視察、松原海岸の平成27年度の計画及実地確認、平成32年度事業を目処とした説明を受けた。

#### ■萬谷 竹彦

戸仲の光漁港に関しましては、平成14年から段階的に工事を行っており、現地にてその説明を受けました。護岸工事、突堤ともに、工事は完了しているとの事。室積松原海岸は、平成25年～32年にかけての工事になるとの事。事業区間は800m。本年度施工する箇所等の説明を受けました。養浜の意味でも引き続き実施していかなければならない事業であり、かなり関心の高い、重要なものだと感じました。

#### ■磯部 登志恵

戸仲においては、平成14～26年度事業について現場確認を行った。漁業者への配慮や台風等への対策など、地元の声を確実に進めて頂いたことを確認できた。さらに、昨年度の繰り越し事業となっている室積松原地区の胸壁工事の現場確認を行った。高潮堤防に関する国の予算がなかなかつかない状



況の中、できる所から進めていく予定との説明であったが、虹ヶ浜の擬木柵などの高潮堤防とは少し違い、高さの状況がイメージできにくかった。

今後、養浜工については海水浴シーズン後（9月ごろ）1カ所に色砂の投入と聞いたが、確実な検証結果の下、地元住民の安心安全を確立できるよう進められるよう期待したい。

#### ■加賀美允彦

戸仲漁港の海岸保全施設については、さすがに費用をかけただけに立派な護岸が出来上がっていた。防砂突堤の効果が期待されるが、その成果はどうしてわかるのか聞いてみたかった。ただ、内側の護岸が低くて貧弱で、大型台風などで戸仲の方々を守れるのか不安を感じた。次に、松原地区の胸壁設置予定場所を見学したが、具体的にどんなものができてどうなるのか聞いただけではよくわからなかった。胸壁が出来て具体的な効果がみえるものと期待している。

#### ■木村 則夫

戸仲地区の護岸と防砂突堤を視察。松原地区では胸壁の工事予定地を視察。現在、高潮堤防に向けて、再度、試験養浜を行っているが、最終の計画については、試験養浜の結果は待つものの、再度、市民への説明と検討が必要と考える。

#### ■土橋 啓義

戸仲漁港の防砂突堤、室積松原地区の胸壁工事を視察した。砂浜の面積が、20年前と比べて面積がずいぶん減っているとの説明を受けた。

この事業は長い期間をかけて効果が判ってくるものであるから、検証を行いつつ、着実に事業を前進させていってほしい。

#### ■中村 賢道

平成14年～26年度までの戸仲漁港の整備事業について、現地視察を行った。問題点は、台風対策と高波であると再確認した。松原海岸は、平成25年～32年度にわたる長期の工期となる。胸壁と言う説明であったが、港湾における地震・津波対策、つまり防潮堤であると理解した。早期完成により海岸と地域の安全が守られることを望みます。

#### ■畠堀 計之

平成14年度～26年度までの戸仲地区の事業内容と平成25年～32年度までの計画の内、平成25～26年度施工の胸壁工（30m）、養浜工（10,000m<sup>3</sup>）、平成27年度施工内容等について、計画策定に向けて行われた着色砂による実証実験をはじめ施行内容や今後の予定等々、現地で詳細な説明を受けた。本事業は、海岸保全と安全対策の両面において重要なもので、早期の完成が期待される。

#### ■森戸 芳史

戸仲地区の海岸漁港整備については、平成14年から26年までで完成している。2度の台風で被害を受け約8億円（国67%）の海岸工事となった。2度の台風以降、高潮の被害はないので効果はあったと考えられる。引き続き状況を見守りたい。松原海岸については25年度から32年までの工期となっており26年度施行部分と今年度の工区を視察した。全長が800mとなり膨大な工事となるため今後も海岸保全、景観、コストパフォーマンスの観点で定期的にチェックしていきたい。

#### 4 光市特産品開発促進事業について

##### ■大樂 俊明

里の厨に隣接されたイチゴ栽培施設見学とその販売を兼ねたカフェを見学、事業主体は農業組合法人つかりの経営であり、今後の新規就業も期待できる。

##### ■萬谷 竹彦

平成26年6月よりイチゴ栽培、平成27年3月よりカフェの事業を開始した「農事組合法人つかり」より説明を受けました。初年度はまだ、始めたばかりで、予定していた出荷量には届かなかったものの、これから販促にも力を入れていきたいとの事でした。光市も補助金を出していることから事業が軌道に乗ることを考え、協力していかなければと感じました。最後にカフェでカップケーキを頂きました。美味しかったですよ。

##### ■磯部 登志恵

農事組合法人つかりが行っている「いちご栽培」「カフェ」の現場を確認したが、若い人の雇用の場にもなり、今後の六次産業化の展開に大いに期待できる事業と感じた。イチゴの栽培・出荷に関しては、計画通りとはいかない現状もある様だが、試行錯誤を重ねつつ、光市のブランドとして全国に発信できるよう頑張っていたきたいと願っている。

##### ■加賀美允彦

農事組合法人つかりが経営しているイチゴ栽培場所とカフェを見学した。イチゴ栽培ハウスはさすがに立派なもので、民間の個人ではとてもできないような設備で、作業者が楽に作業ができるように棚方式でイチゴの栽培をしていると聞いてびっくりした。その事業費に1億を越す補助金がつぎ込まれており、本当に多くの農業者に利益をもたらすのか今後見つめていかねばならないと感じた。また、カフェ事業については、くつろぐところが2階でしかも殺風景でこれでお客がよべるのか疑問を感じた。

##### ■木村 則夫

東荷の里の厨に併設されたイチゴの栽培施設は、総額1億600万をかけて

整備されて来た。販売に関しては市外の業者との事。カフェではケーキを試食したが、イチゴの魅力が引き出されていないのが残念。

■土橋 啓義

農業組合法人「つかり」の展開するいちご栽培とカフェを視察。いちご栽培は平成26年度から、カフェは平成27年度からの取り組みであるが、若年層の雇用の場を創出していることが伺われた。

また、出来たいちごは、近県に出荷するとのことだが、販売経路を充実させ、光市の第6次産業を大いに盛り上げて欲しいと期待する。

■中村 賢道

光市農業振興拠点施設「里の厨」は、平成23年7月のオープン後、平成27年3月時点でレジ通過者が90万人と、好調な売上げを続けています。いちご栽培はまだ始めたばかりで生産も大変だと思うが、頑張っていたきたい。若年層の雇用の場でもある。6次産業に大いに期待しています。

■畠堀 計之

農業組合法人つかりが、事業主体となるイチゴ栽培（平成26年6月開始）、カフェ（平成27年3月1日開始）について視察を見学し、説明を受けた。事業費（イチゴの栽培施設一式64,156千円、出荷調整及び加工販売施設一式42,120千円）については、農業水産省交付金（農産業村活性化プロジェクト支援交付金42,946千円、六次産業化ネットワーク活動交付金4,250千円）と、光市補助金35,079千円が交付されている。イチゴ栽培は栽培開始から1年を迎えるところで安定栽培にはまだ至っていないようであるが、里の厨に併設されているカフェの運営は順調にスタートしている。当面の課題としては、イチゴ栽培の早期安定と並行して、販路の拡大が課題となっている。今後の事業の安定化とあわせて、若手人材の育成や雇用の確保についても期待したい。

■森戸芳史

収穫は3tということでイチゴの特産品化も緒に就いたばかり。加工も試行錯誤の段階なので推移を見守りたい。